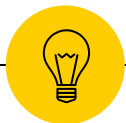


Sierにおける 横断的AWS専門チームの必要性

～ 土壌づくりはお早めに！ ～





アジェンダ

1. 社内AWSチーム立ち上げの経緯
2. チームの活動内容
3. 社内にAWSチームを立ち上げることの意義
4. まとめ



自己紹介

- ◎ 金田 賢太郎 (@da_ka_ne)
 - エンジニア歴 16年目
 - ヘルスメディテック事業部 所属
 - プロジェクトリーダー など
 - Backlog助っ人サービス責任者
 - AWSチームリーダー
- ◎ 好きなAWSサービス
 - API Gateway & Lambda

1

社内AWSチーム 立ち上げの経緯

はじめはコストカットから



チーム立ち上げまでの歴史

- ◎ 2013年1月頃 - 事業部でAWS導入開始
 - EC2を開発サーバとして利用
- ◎ 2016年12月頃 - 部内AWSコストが \$1,350 に
 - インスタンス自動起動/停止をLambdaで行う等の取り組み
- ◎ 2018年9月頃 - APN登録 (スタンダードコンサル)
- ◎ 2019年7月頃 - 部内AWSコストのピーク \$1,835
 - サービスの枠組みでのコストカットの限界へ
- ◎ 2020年2月頃 - AWS Organizations導入
 - 社内アカウントの統合によるボリュームディスカウント狙い



チーム立ち上げの経緯

- 2020年10月頃 - 請求代行サービスの利用開始
- 2021年1月頃 - AWSアカウント数が13を超える
- 2021年2月AWSチーム発足
 - 社内のほとんどの事業・案件でAWSを利用している
 - 社内ノウハウを集約し、将来の案件におけるコストダウンを図る
 - セキュリティやコストに関する統制がとれていない
 - 専門チームによる統制をとることで全社のリスクを低減する
 - AWS パートナー としての価値向上
 - AWSスキルを活かしたチャネルの開拓

2

チームの 活動内容

AWSの啓蒙と統制



活動内容

- ◎ 隔週のミーティング (2h)
 - チーム活動の方針決め
 - 社内からの相談ごとの対応
 - セキュリティやコストに関する懸案の対応
 - 社内AWS活用事例の収集と共有・CFnテンプレート化
- ◎ 毎週の課外活動 (1h)
 - AWSスキルブラッシュアップ
 - 社内ハンズオン運営
- ◎ AWSアカウント作成・削除



主な実績等

- ◎ コストに関する懸案の対応
 - 全アカウントへの予算アラート設定
 - スイッチロールにより、AWSチームからトップダウンで展開
- ◎ 社内AWS活用事例の収集と共有
 - 「ALBのアクセスログをS3へ出力しAthenaで集計」
 - 「EC2インスタンス作成者を自動でタグ付け」
- ◎ AWSスキルブラッシュアップ
 - AWS WAFをBlackBeltOnlineで視聴後、実践

3

社内にAWSチームを立ち上げることの意義

我々が今後悔していること



我々が考えるチームの使命

- ◎ コスト・セキュリティ対策
 - 各チーム・案件で好き放題リソースを作成
 - 5年間、\$10/月のリソースが放置されていたら・・・？
 - 放置されているリソースにセキュリティリスクが潜んでいたら・・・？
- ◎ ノウハウの偏在化
 - せっかくのCFnテンプレートが持ち腐れ
 - CFnを利用して数秒で済むVPC構築を別チームが毎回 1h 掛けて構築していたとしたら・・・？

4

まとめ

今日お持ち帰りいただきたいこと



まとめ

- ◎ AWSの社内利用に広がりが見込まれるなら
 - 早めに専任者 (チーム)・ルールの整備を
 - 利用者への正しい知識の伝達もお忘れなく
- ◎ AWSのノウハウ・ナレッジはしっかり共有
 - 専門性が高く、進化のスピードも凄まじい
 - せっかく得られた知的資産は有効に活用しましょう



CM



- Backlog助っ人サービス
 - Backlogでお困りの事
 - APIを利用したカスタマイズ
 - 導入・運用支援
 - Backlogスペース間のPJ移行



- 助っ人サービス for kintone
 - kintoneでお困りの事
 - アプリ作成
 - 運用・運用支援





ご清聴ありがとうございました。

ご質問等あれば是非どうぞ。

📌 アジェンダ

1. 社内AWSチーム立ち上げの経緯
2. チームの活動内容
3. 社内にAWSチームを立ち上げることの意義
4. まとめ

📌 まとめ

AWSの社内利用に広がりが見込まれる
早めに専任者(チーム)・ルールの整備を
利用者への正しい知識の伝達もお忘れなく

AWSのノウハウ・ナレッジはしっかり共有
専門性が高く、進化のスピードも凄まじい
せっかく得られた知的資産は有効に活用しましょう